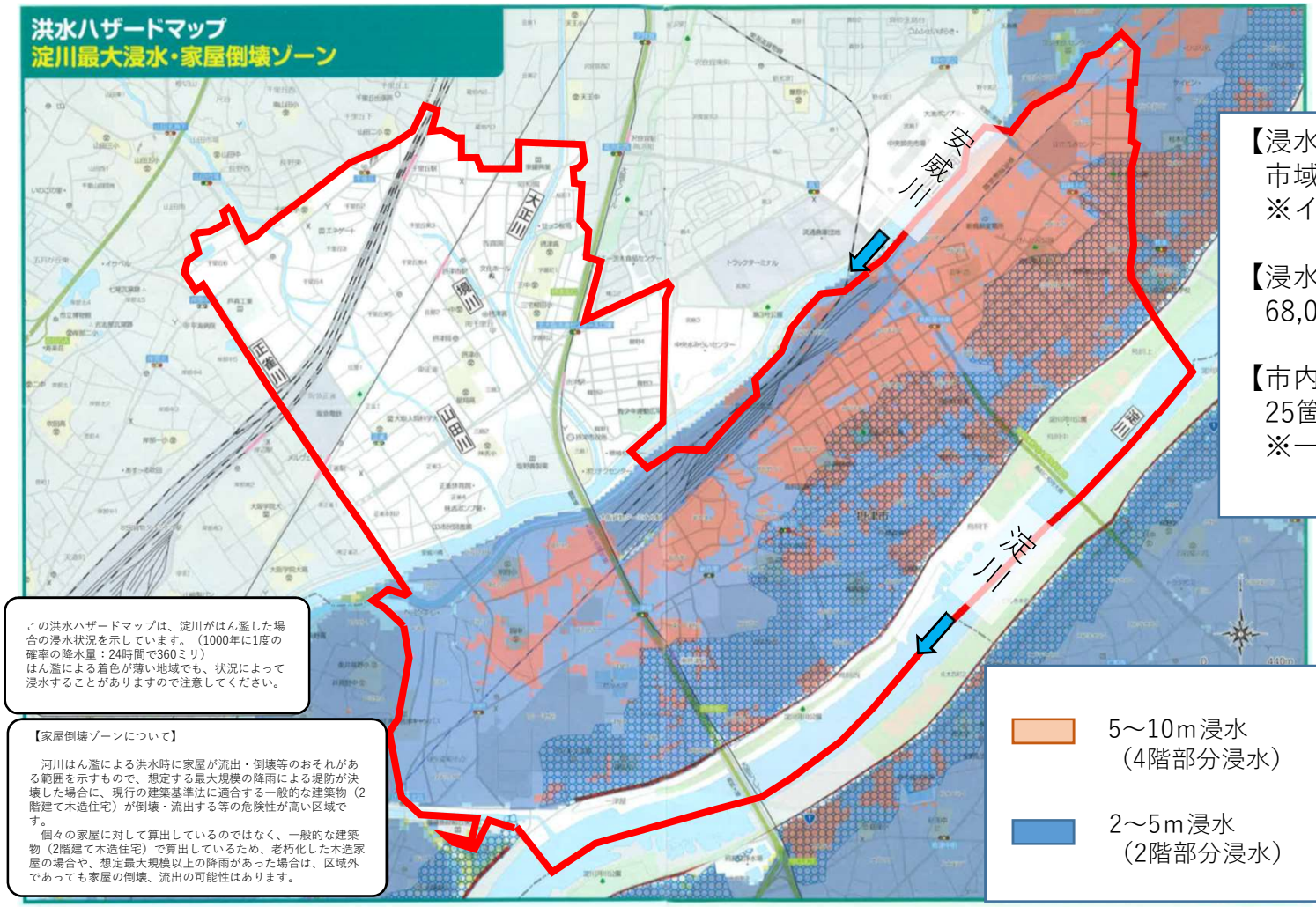
# SOS避難メソッド

**Settsu Original Separate**

～アフターコロナ／3密回避／公民連携分散避難～

# ■摂津市の概況

・淀川、安威川等に囲まれた平坦な地域　⇒　水害の危険性が高い
・国・府（河川改修・ダム建設）、市（水路・下水整備）　⇒　水害に強いまちづくり
・日頃、市民共働による避難訓練・防災マップの作成等　⇒　地域防災意識の向上
・コロナ禍においては、避難スペースが4倍必要　⇒　さらなる避難スペースが必要




【浸水するエリア】
市域ほぼ全域
※イラストは淀川氾濫時

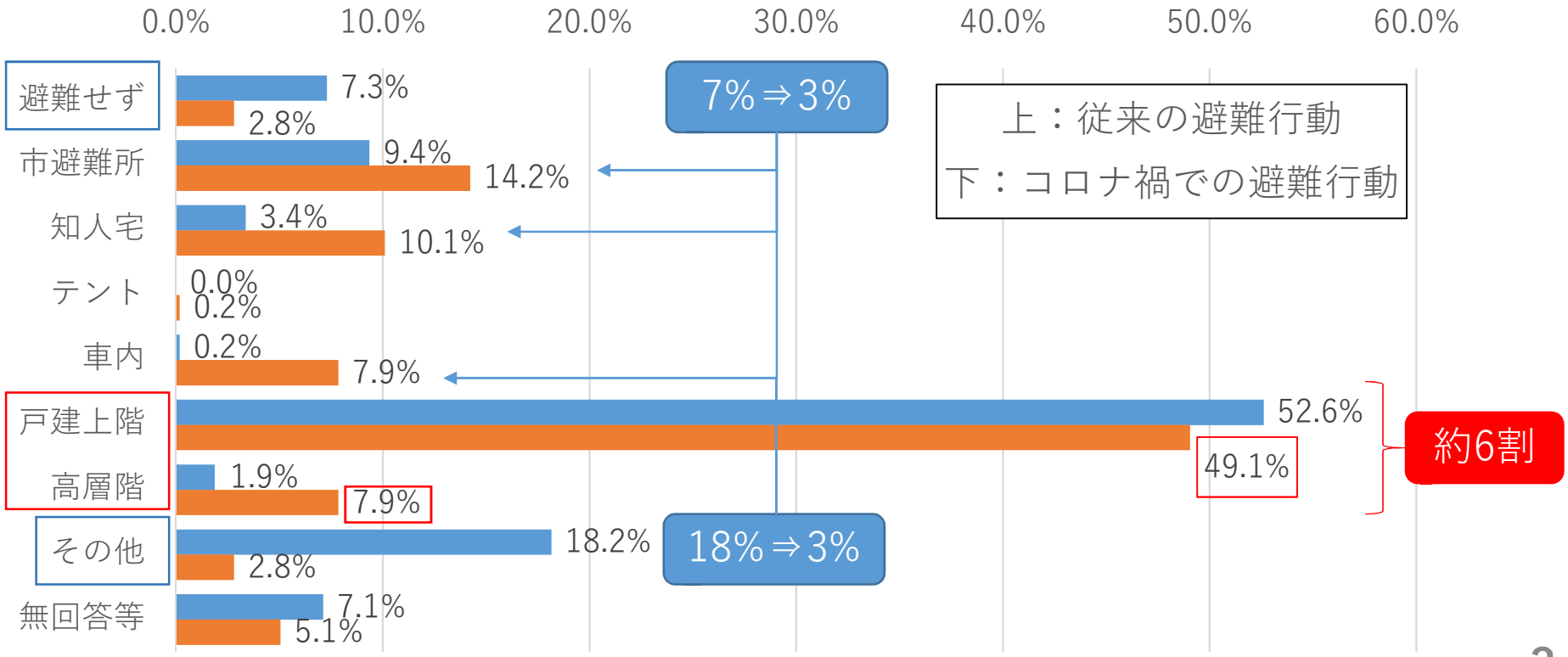
【浸水エリア内人口】
68,000人

【市内避難場所】
25箇所
※一時避難所含む

# ■市民アンケートの結果

・従来の避難行動とコロナ蔓延下における避難行動を調査
・避難しないと答えた方は、7%からコロナ禍において3%へ減少
・その他の回答、18%は「避難経験なし」が大半。コロナ禍での3%は「その他の場所へ避難する」。
・コロナ禍では、知人宅への避難、車中避難等が増加
⇒市民の防災行動の変容が見られる。

・戸建上階や高層階への避難と回答された方は約6割と横ばい
・一方、堤防決壊時の浸水想定では、約3割の方しか自宅等での垂直避難ができない。
⇒残る　約3割の方々は『さらなる分散避難』が必要



# ■S.O.S.避難メソッド

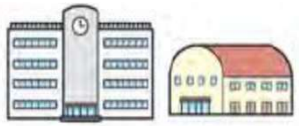
## 【従来の避難行動】 ※避難対象者　68,000人

市が指定する避難場所への避難

## 【S.O.S.避難行動】 従来の避難場所に加えて、

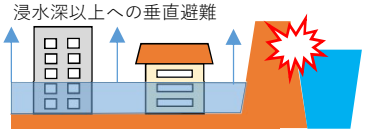
・民間施設、自宅、縁故、車中　など多様な避難
・地元企業の事業所、万博公園に避難場所を新たに確保予定

■従来の
避難場所への避難
約１割



■自宅避難
約３割

浸水深以上への垂直避難



■知人宅等への縁故避難
約２割

■車中・テント等
青空避難
約２割

摂津オリジナル（約2割）

■民間施設（事業所等）
への避難

■広域避難
・万博公園に避難場所を確保
（調整中）

※また、感染症対策として、専用避難場所の確保について関係機関と調整を進め、クラスター化を防ぐ環境整備や運営体制の構築等を併せて行う。

S.O.S.避難メソッドに合わせて、淀川沿川では、垂直避難場所の確保や中高層へ居住を誘導する等、「真に水害に強いまちづくり」を目指し、ソフト・ハード両面から一体的に取り組む。